

山陽小野田市立山口東京理科大学 地域連携・社会貢献レポート

2020年4月～2021年3月



公立大学法人 山陽小野田市立
山口東京理科大学
Sanyo-Onoda City University

地域連携・社会貢献レポートの刊行にあたって

山陽小野田市立山口東京理科大学

学長 望月 正隆

大学の存在意義は何か。もちろん、揺るぎない柱としての大学の存在意義は人材育成でありましょう。入学した学生の勉学意欲に応え、学生を取り巻く周囲の期待も満たすことでしょう。しかし、冒頭の問いへの解答の難しさの一つの理由は、ひと昔前に比べ、大学に対する価値観がかなり変化してきたことにあります。かつての、教育研究の場、幅広い知識と高度の専門性、長期の課題に挑戦するところといった印象が揺らぎ、短・中期的な社会貢献、研究成果の社会への確実な還元といったことが課せられるようになってきている事実があります。加えて新たな取り組みとして、社会・地域への積極的なアプローチ、地域産業の創出・振興までも期待されているのです。

こうした中、本学の目指すところの拠り所は理科大の建学精神「理学の普及を以て国運発展の基礎とする」、いわゆる実学主義にあります。これを受けた本学の理念・目標等はHPや大学案内に明示しており、アドミッションポリシー、カリキュラムポリシー、ディプロマポリシーに反映しています。さらに、「SOCU Way (本学の進むべき道)」として明瞭に掲げてあり、“教育と研究の成果としての社会・地域貢献と人材育成”を本学の行動基準としているのです。その結果として、本学が永年、標榜してきた育成すべき人材が「地域産業界や地域社会で活躍できる人材」となったのです。本学は既に5000人近いこうした人材を社会に送り出して来ましたが、その教育と研究の過程で多くの地域関連活動、社会貢献活動を行い、成果を上げて参りました。今回、その一端を本レポートにてご紹介させていただきますことは本学関係者一同の喜びであります。まさに前述した社会や時代の要請を先取りしてきた大学ということができません。

さらに、本学の創立を振り返りましても、地元の県や市の自治体とものづくりを中心とした産業界、東京理科大学の三位一体の想いが形となって、1987年に公私協力方式でスタートしております。当初の工学系短大から4年制大学に移行したのが1995年、さらに公立化したのが2016年です。大学の設立からして本学は地域との強い繋がりがあり、教育、研究面での地元との連携を礎として参りました。昨今、文部科学省が盛んに主導している大学は地域の知の拠点であるべきという考え方も、本学においては既に誕生時から背中に背負ってきたものです。これからもその思いは微塵も変わることなく、本学はまさしく、地域立大学として未来に向かって前進してまいります。本学が山陽小野田市の教育機関の中心にいることから、小・中・大・社会人の連携教育に携わることを既に、市長と市教育委員会に認めていただきました。本年はさらに内容を広げ、幼児からの小・中・高・大・壮および高齢者の一生に亘る教育連携を展開したいと考えます。緑の中でキラリと光る研究学園都市・山陽小野田を市民全体の心の中に造り上げ、市民が心からふるさとと考える山陽小野田市に成長させたいと思います。

本学の地域連携・社会貢献の取り組み

山陽小野田市立山口東京理科大学は、地方都市における落ち着いた教育環境のもと、学校法人東京理科大学との姉妹校関係を維持強化しつつ、薬工系の基礎的知識と専門的な学術を教育・研究するとともに、地域に根差し、地域社会の発展に寄与する「地域のキーパーソン」の育成に貢献することを目的としています。

また、教育及び研究とともに、地域創生における「知のローカル・ハブ」という役割を果たし、地域社会と地域産業の振興・発展に寄与する社会貢献機能を備えた個性ある大学となることを基本姿勢としています。

本学の地域連携・社会貢献の取り組みは、設立母体である山陽小野田市から提示された中期目標のうち「地域社会との連携、地域貢献に関する目標」の達成に向け、本学が2016年4月1日から2022年3月31日までの6年間に実施する「地域社会との連携、地域貢献に関する中期計画」に基づいて行われています。

本レポートでは、本学が中期計画に基づき、2020年度に行いました地域連携・社会貢献の取り組みの一部をご紹介します。

<地域社会との連携、地域貢献に関する中期計画>

1. 地域コミュニティの中核的存在としての拠点化

- (1) 地域連携センターの生涯学習部門及び地域連携室を中心に地域社会との連携や地域貢献活動を推進強化します。
- (2) 講演会、研修会、教育・教養講座及び中高教員向教育等を計画、実施します。
- (3) 地域の技術力向上の支援（技術相談、企業教育支援、専門家派遣、人材の供給等）を行います。
- (4) 学生向けの地域教育の推進及び地域活動の支援（大学施設・設備の提供、教員知識の活用等）を行います。
- (5) 地元小中高への出前授業や実験体験、市民への大学開放を実施します。

2. 産業界との連携

- (1) 大学の技術シーズと企業の技術ニーズのマッチングを図り、支援する仕組みを構築します。
- (2) 研究連携、シンポジウム、セミナー及び研究成果の活用促進等大学の外に向けた活動を活性化します。

3. 政策形成等に貢献するシンクタンク機能の発揮

- (1) 地域の課題に対して積極的に市や商工会議所の委員会、審議会に参加します。

4. 学生の地元定着

- (1) 入学者に占める県内学生割合の向上
入学者選抜の適正な実施に留意しつつ、入学者に占める県内出身者の割合を高めていきます。
- (2) 県内就職割合の向上
大学を卒業し、県内に就職する者の割合を高めていきます。

目 次

| | |
|------------------------------|----|
| 社会貢献レポートの刊行にあたって | 1 |
| 本学の地域連携・地域貢献の取り組み | 2 |
| 1. 市民への貢献 | |
| (1) 薬草による健康づくり講座 | 5 |
| (2) 「幼児のための感染対策カルタ」を作成 | 5 |
| (3) サイエンス・カフェ | 6 |
| (4) 地域に関する教育研究成果の展示 | 6 |
| 2. 高等学校との連携 | |
| (1) 市及び市教育委員会・市内高校と教育連携協定を締結 | 7 |
| (2) 高校生健康講座 | 7 |
| (3) 出前講義 | 8 |
| 3. 産業界との連携 | |
| (1) 田辺三菱製薬工場株式会社と包括連携協定を締結 | 9 |
| (2) 山口 GMP カレッジワークショップを開催 | 9 |
| (3) イノベーション・ジャパン 2020 | 10 |
| (4) 研究シーズ集の発刊 | 10 |
| (5) 商工会議所会報による研究紹介 | 10 |
| (6) 「はぶ茶ワーズ」の共同開発 | 11 |
| (7) 産学公による大学オリジナルクッキーの開発 | 11 |
| 4. 地域団体との連携 | |
| (1) 第10回 SOS 健康フェスタ | 12 |
| (2) 県民活動リレーイベントにて薬草講座 | 12 |
| 5. 学生による地域貢献 | |
| (1) 新型コロナウイルス感染防止啓発ポスターを作成 | 13 |
| (2) 埴生の魅力を紹介したパンフレットを作成 | 13 |
| (3) 小野田駅前にイルミネーション制作 | 13 |
| 6. 地域の知を教育に生かす取り組み | |
| (1) 地域卒業研究 | 14 |
| (2) リーダーシップ論 | 14 |
| (3) 地域技術学 | 14 |
| (4) 地域産業論 | 15 |
| (5) 地域社会学 | 16 |
| (6) 市内県内企業見学 | 16 |
| (7) 行政薬剤師体験実習 | 16 |
| (8) 大学リーグやまぐち PBL実践報告会 | 17 |
| (9) 薬学教育のための市民模擬患者 | 17 |
| (10) 市内企業インターンシップ | 18 |
| (11) 県内企業インターンシップ | 18 |

| | |
|--------------------------------|----|
| (12) 学術と地域文化 | 18 |
| 7. 地方公共団体との連携 | |
| (1) 山陽小野田市長による特別講義 | 19 |
| (2) 市立図書館との相互利用 | 19 |
| (3) 江汐公園にある薬学部附属薬用植物園を活用 | 19 |
| (4) 山陽小野田市民病院との包括連携・協力に関する連携協定 | 20 |
| (5) 住まいる奨励金 | 20 |
| (6) スマイルチケットを本学学生全員に配布 | 21 |
| (7) 山口県災害薬事コーディネーター養成研修会 | 21 |
| (8) 「認知症サポーター養成講座」を受講 | 22 |
| (9) 各種委員の応嘱（行政関係） | 23 |
| 8. 消防署との連携 | |
| (1) 学生消防団員 | 26 |
| (2) 防災訓練 | 26 |
| (3) 普通救命講習 | 27 |
| 9. その他の取り組み | |
| (1) 各種委員の応嘱（行政関係以外） | 28 |
| (2) 非常勤講師・役員の応嘱（行政関係以外） | 32 |
| (3) 船鉄バスのフリーパスについて | 33 |
| (4) 研究機器の開放 | 33 |
| 10. 地域からの入学 | |
| (1) 地域推薦 | 34 |
| (2) 入学者に占める山口県出身者（学部） | 34 |
| 11. 地域への人材輩出 | 35 |
| 12. 地域への経済波及効果 | 35 |
| 13. 市内人口の約44人に1人が理科大生 | 35 |

1. 市民への貢献

(1) 薬草による健康づくり講座

開催日：2020年10月17日（土）～2021年1月30日（土）

主催：総合型地域スポーツクラブ「すげえちや・高泊」

後援：（公財）山口県体育協会・生涯スポーツ推進センター、山陽小野田市

場所：江汐公園、竜王山、山陽小野田市立山口東京理科大学

担当：薬学部薬学科 嶋本頭 教授、田中宏幸 教授

内容：本学は共催として参画し、薬用植物をキーワードにアクティブに学ぶ薬草講座を開催しています。2020年度は新型コロナウイルス感染拡大防止のため、全5回に縮小して開催されました。10月24日（土）の竜王山散策では、薬学部薬学科の田中宏幸教授が講師を務め、約30名の方が参加されました。



(2) 「幼児のための感染対策カルタ」を作成

担当：薬学部薬学科 坂井久美子 講師、百溪江 教授、福島聡 助教

内容：研究推進機構が取り組む「地域課題解決研究事業」の一環として、感染症対策に係る「幼児のための感染対策カルタ」を作成しました。同カルタは、薬学部の坂井講師らが発案・企画したもので、幼児が遊びながら感染症予防について学ぶことができるものとなっています。



(3) サイエンス・カフェ

山陽小野田市立中央図書館を会場に、本学の教員が大学で取り組んでいる専門分野について、分かりやすく紹介しました。2020年度の開催状況は次のとおりです。

| | |
|------|---|
| 第32回 | 2020年8月22日(土)(22名) 「分子の形をコンピュータで観察する ～分子の形から薬を設計する～」 薬学部薬学科 緒方 浩二 教授 |
| 第33回 | 2020年10月24日(土)(7名) 「実は日本がオリジナル・ATM」 工学部機械工学科 吉田 和司 教授 |
| 第34回 | 2020年12月20日(日)(12名) 「物性化学のすすめ ～元素から分子を創り、操る～」 工学部応用化学科 井口 眞 教授 |
| 第35回 | 2021年2月13日(土)(21名) 「素粒子物理学の世界 ～弦の場の理論の数値計算まで～」 共通教育センター 岸本 功 准教授 |

(4) 地域に関する教育研究成果の展示

開催日：2020年6月15日(月)～2020年9月30日(水)

場 所：大学WEBサイト

内 容：市民の皆様には本学の地域関連教育へのご理解とご関心を深めていただくため、2019年度に学生が取り組んだ「地域に関する卒業研究テーマ」の一部を展示公開しました。前年までは市内の公共施設にて展示しておりましたが、2020年度は新型コロナウイルス感染拡大に伴い、WEBサイトにて公開いたしました。

2. 高等学校との連携

(1) 市及び市教育委員会・市内高校と教育連携協定を締結

開催日：2020年11月5日(木)

場 所：山陽小野田市役所

内 容：山陽小野田市、山陽小野田市教育委員会、厚狭高等学校、小野田高等学校、小野田工業高等学校、サビエル高等学校、山陽小野田市立山口東京理科大学は「学ぶ喜び、知る喜び」をテーマに、市、教育委員会、市内高校、大学が緊密な協力関係を築き、山陽小野田市域における小学校から大学までの一貫教育を目指し、進学支援活動、教育支援活動、生涯学習支援活動、その他教育連携の4項目で連携する「包括連携教育・協力に関する協定」を締結しました。



(2) 高校生健康講座

開催日：2020年12月8日(火)

場 所：山口県立小野田高等学校

担 当：薬学部薬学科 相良英憲 准教授

テーマ：体を知って薬とつきあう ～健康を維持するための生活の知恵～

内 容：山口県立小野田高等学校の「お薬教室」において、薬学部の相良英憲准教授による健康講座「体を知って薬とつきあう～健康を維持するための生活の知恵～」を行いました。会場となった保健室には約30名の生徒が集まり、身近な医薬品の適切な使用方法から、脳卒中が疑われる場合の症状、ペンライトを使った瞳孔反射の観察、交感神経と副交感神経の役割などを学び、参加した生徒は熱心に身体や薬についての学びを深めていました。



(3) 出前講義

高校生を対象に、本学教員が高校に出向く出前講義を行いました。

2020年度の出前講義の実施状況は次のとおりです。

| 実施日 | 高等学校 | 担当教員 |
|----------------|-------------|----------------|
| 2020年10月16日(金) | 山口県立下関西高等学校 | 薬学部薬学科 松永浩文 教授 |
| 2020年11月17日(火) | 山口県立下関南高等学校 | 薬学部薬学科 松永浩文 教授 |

3. 産業界との連携

(1) 田辺三菱製薬工場株式会社と包括連携協定を締結

開催日：2020年12月16日(水)

場 所：山陽小野田市立山口東京理科大学

内 容：本学と田辺三菱製薬工場株式会社は、互いに協力して取り組むべき新たな技術の創造と将来の地域医療を支える人材の育成を進めるため、包括連携協定を締結しました。これまで両者は、山陽小野田市という同じ立地の利点を活かして、学生インターンシップ等で交流を図っておりましたが、今後は研究開発、人材育成を含めて一層の連携を推進してまいります。



(2) 山口県 GMP カレッジワークショップを開催

開催日：2020年12月4日(金)、12月15日(火)、2021年1月8日(金)

場 所：山陽小野田市立山口東京理科大学

内 容：山口県 GMP カレッジとは、山口県、山口県製薬工業協会、本学の産学公連携により医薬品製造所の人材育成・人材確保の支援および GMP に係る人材育成プログラムの作成・実施を目的とした、本学薬学部学生および医薬品製造所新規従事者向けの事業です。2020年度は薬学部の2,3年生を対象としたワークショップを3回開催しました。

| ワークショップ | 日 時 | 概要 |
|---------|--------|--------------------------------------|
| 1 | 12月15日 | 本学学生と県内の医薬品製造所に勤める新規従事者を対象に GMP の講演 |
| 2 | 12月4日 | スマートグラスを通じて田辺三菱製薬工場株式会社小野田工場をオンライン見学 |
| 3 | 1月8日 | 日産化学株式会社小野田工場の医薬品開発について薬剤師の皆様と意見交換 |

(3) イノベーション・ジャパン 2020

開催日：2020年9月28日（月）～2020年11月30日（月）

場 所：オンライン開催

担 当：工学部電気工学科 高頭孝毅 教授

内 容：国立研究開発法人科学技術振興機構（JST）が主催する国内最大級の産学連携マッチングイベント「イノベーション・ジャパン 2020～大学見本市 Online～」に出展し、高頭孝毅教授（工学部電気工学科）の超低電圧駆動液晶デバイスを紹介しました。2020度は新型コロナウイルス感染症拡大に伴い、初のオンライン開催となりました。

(4) 研究シーズ集の発刊

地域が抱える課題解決のヒントや企業の新規事業創出の一助になることを願い「研究シーズ集」を制作し、市内外の関係機関に配付しています。また、同じ内容は本学 WEB サイトに掲載しています。2020年度には新たに着任した教員の研究シーズを追加して製本するとともに、デジタルブックを公開しました。

<研究シーズ集 URL>

<http://www.socu.ac.jp/laboratory/regional-collaboration/seeds.html>

(5) 商工会議所会報による研究紹介

地元企業の皆様に、本学の研究技術を知っていただく機会の一つとして、小野田商工会議所、山陽商工会議所の会報に、毎月本学の研究技術を紹介する記事を連載させていただきました。2020年度に掲載した内容は次のとおりです。

| テーマ | 担当教員 |
|--|-----------------|
| 超微粒子（ナノ粒子）の健康影響とその予防、克服に関する研究 | 薬学部薬学科 武田健 教授 |
| 医薬品関連有機化合物を三次元構造まで考慮して効率良く合成する方法の開発 | 薬学部薬学科 松永浩文 教授 |
| 生体高分子のコンピュータシミュレーション | 薬学部薬学科 緒方浩二 教授 |
| 地域の健康をサポートする取り組みについて | 薬学部薬学科 嶋本顕 教授 |
| 生薬、薬用植物のイムノアッセイによる品質評価法の確立 | 薬学部薬学科 田中宏幸 教授 |
| 光を使い分けて生活を変える？ | 薬学部薬学科 広井賀子 教授 |
| 発がん抑制の有機化学 | 薬学部薬学科 稲見圭子 教授 |
| 生理学的機能変動のモデリング&シミュレーション～薬物動態と体内時計について～ | 薬学部薬学科 牛島健太郎 教授 |
| 災害時医療支援と薬剤師 | 薬学部薬学科 恵谷誠司 教授 |

| | |
|--|----------------|
| 院内感染の防止 | 薬学部薬学科 尾家重治 教授 |
| 水を使わない口腔ケア製剤を目指したフッ化物含有口腔粘膜付着性パッチ製剤の開発 | 薬学部薬学科 小野浩重 教授 |
| ロコモ（運動器不全症候群）を考える | 薬学部薬学科 河合伸也 教授 |

(6) 「はぶ茶ワーズ」の共同開発

担当：薬学部薬学科 楠瀬直喜 助教

内容：つねまつ菓子舗様と本学教員が共同で「はぶ茶ワーズ」の共同開発を行いました。「はぶ茶ワーズ」は、クリームとクッキー生地にはぶ茶粉を配合した新しいダックワーズです。恒松社長のおいしく体にいいお菓子が作りたいという思いから、西京銀行を通じて本学に相談があり、楠瀬助教のこれまでの生薬研究成果をマッチングすることで、約9か月の共同開発期間を経て商品化が実現しました。



(7) 産学公による大学オリジナルクッキーの開発

開催日：2020年6月29日(月)

場所：山陽小野田市役所

内容：学生を対象にした大学グッズ作成アイデアコンテストで入賞した作品を基に、地元特産の寝太郎かぼちゃを生地に練り込んだものを、トロアメゾン様に本学と山陽小野田市のコラボ商品として商品化しました。令和2年6月29日には、大学発のオリジナルクッキーの完成報告会を山陽小野田市役所で行いました。



4. 地域団体との連携

(1) 第10回SOS健康フェスタ

開催日：2020年11月15日（日）～2020年11月30日（月）

場 所：オンライン開催

主 催：SOSかたつむりで行こう会

担 当：薬学部薬学科 田中宏幸 教授「身近な生薬について学ぼう」

薬学部薬学科 坂井久美子 講師「正しい手の洗い方を学ぼう」

内 容：SOS (Sanyo Onoda Station) かたつむりで行こう会主催のSOS健康フェスタは、地域住民の皆様健康づくりに関心を持って頂くためのイベントです。2020年度は新型コロナウイルス感染拡大防止のためオンラインでの開催となりました。本学からは健康づくりに関する2本の動画を公開しました。

(2) 県民活動リレーイベントにて薬草講座

開催日：2020年11月21日（土）

場 所：山陽小野田市江汐公園

主 催：山陽小野田市連合女性会、公益財団法人山口きらめき財団

担 当：薬学部薬学科 田中宏幸 教授、楠瀬直喜 助教

内 容：「スマイルシティ山陽小野田～女性のパワーで地域を元気に～」をスローガンに、自然とふれあいながら健康について学ぶイベントが開催され、230名の方が参加されました。本学の田中教授は薬草講座の講師を務め、薬用植物園や薬草の効能について解説しました。



5. 学生による地域貢献

(1) 新型コロナウイルス感染防止啓発ポスターを作成

内 容：本学の学生が新型コロナウイルス感染症に関する感染防止や基礎知識などの啓発ポスターを制作しました。この取組は、山陽小野田市スマイルエイジング強化月間の一環として新型コロナウイルス感染症に関する情報発信を行うため、山陽小野田薬剤師会の要請を受けて実施されたものです。入賞者には山陽小野田薬剤師会の上林雅樹会長から記念品が授与されるとともに、作品4点は山陽小野田市内の薬局に掲示されました。



(2) 埴生の魅力を紹介したパンフレットを作成

内 容：本学の学生有志が、山陽小野田市埴生地区の魅力ある場所やお店を紹介するパンフレットを作成しました。この取組は、埴生地区の団体「埴生てる」からの依頼を受け、本学共通教育センターの中村洋講師の指導の下で行われ、学生たちが現地調査に赴き、写真撮影や料理を試食するなど取材をして完成させたものです。パンフレットは市内各所で配付されました。



(3) 小野田駅前にイルミネーション制作

内 容：本学の学生有志が小野田駅ロータリー広場にイルミネーション制作に参加しました。これは新型コロナウイルス感染拡大の影響で停滞する地域経済の振興を目的として小野田商工会議所が企画、実施したものです。学生有志は『炎』をテーマに電飾を使った撮影スポットを制作しました。



6. 地域の知を教育に生かす取り組み

(1) 地域卒業研究

工学部の卒業研究において、学生が地域に関する研究テーマに取り組んでいます。

2020年度には次のテーマに取り組みました。本学では、地域に関する卒業研究を奨励しており、地域卒業研究に取り組む研究室には、学長から実験実習費の加算配分を行う制度があります。

| 研究テーマ | 研究室 |
|---|----------------|
| 地域ものづくり企業と連携した沸騰冷却向け表面処理技術の開発 | 工学部機械工学科 海野研究室 |
| 山陽小野田市の弱風でも風レンズ効果で増幅して発電できる風力発電システム的设计標準完成の研究 | 工学部電気工学科 森田研究室 |
| 自立型太陽電池パネル故障診断システムへ応用する蛇腹型熱電発電素子の高出力化に向けた改良 | 工学部電気工学科 阿武研究室 |
| 金属コロイド担持多孔性高分子の調製と芳香族ニトロ化合物の触媒的水素化反応への応用 | 工学部応用工学科 白石研究室 |

(2) リーダーシップ論

地元産業界のリーダーを講師として招き、討論と分析・発表等を行いながら幅広い視野と分析力、意思決定力、問題解決力等を養います。



山口県前副知事
西村 亘 氏



山陽小野田市市長
藤田剛二 氏

(3) 地域技術学

地域技術学は、山陽小野田市内の企業が抱える課題について、学生が現地で現物を見ながら現実を学びつつ、ブレインストーミングやKJ法、SWOT分析などのツールを駆使して、課題の解決方法を検討し、発表する授業です。社会人基礎力を習得し、就職に強い人材を育成するとともに、地域産業の現状について理解し、さらには地域における課題解決の助力となることを目的としています。2020年度は宇部フィルム株式会社、共英製鋼株式会社、中国電力株式会社新小野田発電所、長州産業株式会社、都市産業株式会社、永山酒造合名会社、

日鍛バルブ株式会社、BASF戸田バッテリーマテリアルズ合同会社、株式会社明防にご協力を頂きました。さらに山陽商工会議所の田中剛男会頭に地域産業の抱える課題に関する講演や学生の最終発表への講評を頂きました。



学生による現地視察（永山酒造）



学生による現地視察（都市産業）

(4) 地域産業論

地域産業論は経済・社会・環境・制度の持続可能な発展の4本柱から、地域社会における産業の役割を山陽小野田市や山口県の事例から考える授業です。2020年度は関連する専門知識を有する11名の外部講師と企業出身である本学工学部の教授による講義が行われました。



永山酒造の永山社長による講義



山陽小野田市役所の古川副市長による講義

(5) 地域社会学

地域社会学は、学生が山陽小野田市内でフィールドワークを行い（地域に出て調査を行い）、集めたデータを統計的に分析し、地域課題の解決方法を考える授業です。2020 年度には山陽オートレース場、サビエル高校、きららガラス未来館で学生がフィールドワークを行いました。分析結果を踏まえ、課題の解決方法をフィールドワーク先の方々に提案しました。



スマイルキッズでのフィールドワーク



きららガラス未来館でのフィールドワーク

(6) 市内県内企業見学

開催日：2020年8月3日（月）

場 所：中国電力株式会社

内 容：工学部電気工学科2年生35名が、実験科目「電気工学実験Ⅰ」の学外学習として地元企業の中国電力株式会社の新小野田発電所を訪問しました。電気工学実験Ⅰでの新小野田発電所見学は発電所の方の協力で毎年実施しています。電気工学科の2年生は発電所を見学することにより、電磁気学で学ぶ電磁誘導現象の応用の実際を学ぶことができるとともに、発変電工学で学ぶ技術を体感することができます。エネルギー問題・環境問題を考える基礎としても発電所の実際を学ぶ意義は大きいと考えています。2020年度はコロナ禍の中、全員がフェイスシールドをしての見学となりました。発電所の方にも困難を押しして懇切な説明をしていただきました。1回の見学人数を減らすため2回に分けての見学となりましたが、新型コロナウイルス感染症拡大に伴い、急遽協議の結果2回目の見学は中止になりました。

(7) 行政薬剤師体験実習

開催日：2019年6月4日（火）、11日（火）、13日（木）（計3日間）

場 所：山口県庁、葵庁舎、大歳庁舎

内 容：早期体験実習の一環として、行政薬剤師（薬学人）が活躍する医療、保健、衛生、行政の現場を見学し、ディスカッションを行いました。



(8) 大学リーグやまぐち PBL 実践報告会

開催日：2021年2月18日（木）

場 所：山口県立大学

主 催：大学リーグやまぐち

内 容：山口県内の大学が企業や地方公共団体と連携して取り組んだPBL（Project Based Learning）について事例発表を行われました。本学からは学生と共通教育センター中村洋講師が参加し、「地域技術学」の取組を紹介しました。

(9) 薬学教育のための市民模擬患者

場 所：山陽小野田市立山口東京理科大学

内 容：薬学生のコミュニケーション教育のため、一定のトレーニングの後、実際の患者さんのように症状や会話を表現できる患者役を演じる人のことを模擬患者（SP：通称エスピー）といいます。薬学生の実技試験では、患者役を演じていただきます。試験課題で準備されたシナリオを覚え、実際の患者になったつもりで、症状や副作用のことを話したり、薬の説明を受けたりします。本学では、未来の薬剤師を市民の皆様からの協力をいただきながら教育しています。



(10) 市内企業インターンシップ

山陽小野田市内に立地する企業において、学生のキャリア教育や職業体験を支援するため、市内企業インターンシップに積極的に学生が参加しています。2020年度は市内企業4社に対して10名がインターンシップに参加しました。

＜市内企業インターンシップ先＞

宇部フィルム株式会社／山陽小野田市立中央図書館／長州産業株式会社／
日産化学株式会社小野田工場

(11) 県内企業インターンシップ

山口県内に立地する企業を対象に、学生のキャリア教育や職業体験を支援するため、県内企業インターンシップに積極的に学生が参加しています。2020年度は県内企業22社に対して31名がインターンシップに参加しました。

(12) 学術と地域文化

薬学部において、地域を理解し、物事を多角的にみる能力を養うことを目的に、外部講師を招聘する学術と地域文化を開講し、あらゆる分野の一線で、また、地域で活躍する人の話を聞き、人文科学、社会科学及び自然科学などを広く学びました。2020年度のテーマと講師は次のとおりです。

| 日付 | 講師氏名 | 所属等 |
|--------|---------|------------------------------|
| 9月28日 | 調 恒明 | 山口県環境保健センター所長 |
| 10月6日 | 吉田力久 | 山口県薬剤師会 会長 |
| 10月13日 | 尾山貴子・市長 | 山陽小野田市健康増進課 |
| 10月15日 | 河合伸也 | 山陽小野田市立山口東京理科大学 |
| 10月20日 | 久保 久美子 | 全日本かるた協会 初代永世クイーン八段 |
| 10月27日 | 西川 慎 | ガラス工芸作家、株式会社西川グラスアンドアート代表取締役 |
| 11月4日 | 國澤 純 | 国立研究開発法人医薬基盤・健康・栄養研究所センター長 |
| 11月10日 | 玉村 信一 | 萩焼陶芸家 |
| 11月17日 | 浅井 義之 | 山口大学大学院医学系研究科センター長 |
| 11月24日 | 岸本 充弘 | 下関市くじら文化振興室長 |
| 12月1日 | 狭間 研室 | ファルコメディコ株式会社 社長 |
| 12月8日 | 荒川 智美 | 山陽小野田市地域包括 課長補佐 |
| 12月17日 | 磯部 総一郎 | 日本薬剤師会 専務理事 |
| 12月22日 | 半谷 幸子 | 山陽小野田市健康増進課 生活改善推進協議会 会長 |
| 1月10日 | 豊島 聰 | 日本薬剤師研修センター 理事長 |

7. 地方公共団体との連携

(1) 山陽小野田市長による特別講義

開催日：2020年10月3日(木)

場 所：山陽小野田市立山口東京理科大学

講 師：山陽小野田市長 藤田 剛二 氏

内 容：社会に巣立つ上で必要なリーダー資質を養い、将来像の構築や自身のキャリア開発にもつなげることを目的とした講義「リーダーシップ論」にて藤田剛二市長にご講演いただきました。今回の講義では「リーダーシップと人材育成」をテーマとし、企業経営における人材育成の実例を示しながら、志をもったリーダーに成長するために何が必要かを市長にご講演いただきました。



(2) 市立図書館との相互利用

山陽小野田市立図書館と本学図書館との包括的連携協定に基づき、市民の学習活動に資するため、また研究者や学生の教育、研究及び学習活動に資するため、図書館資料の相互貸借を行っています。2020年度の大学と市立図書館間での相互貸借による利用冊数は14冊です。

市立図書館で直接借りた本を本学の図書館カウンターで返却することができるうえ、市立図書館の本をインターネット予約で借りる際、受渡館に「山陽小野田市立山口東京理科大学図書館」を選択することにより予約した本を本学の図書館カウンターで受け取ることができます。

(3) 江汐公園にある薬学部附属薬用植物園を活用

山陽小野田市が運営する自然公園「江汐公園」内に、薬学部附属の薬用植物園の整備をしています。江汐公園は約138万㎡という広大な公園で、江汐湖を中心とする美しい自然環境に恵まれ、四季折々の花が咲き誇る山陽小野田市の観光名所として市民に親しまれています。このたび整備された、薬学部附属の江汐公園薬用植物園は、3,000㎡の園内に約400種1万株の薬用植物が栽培され、大学構内の薬用植物園とともに学生の教育研究施設として利用するほか、薬草観察会など市民の生涯学習の場としても利用しました。



(4) 山陽小野田市民病院との包括連携・協力に関する連携協定

開催日：2020年12月23日(水)

場 所：山陽小野田市役所

内 容：本学と山陽小野田市民病院が山陽小野田市立であることを前提とし、知的・人的資源の交流及び活用を図り、地域の医療並びに保健・福祉の発展に寄与する事を目的として、この度「包括連携・協力に関する連携協定」を締結しました。



(5) 住まいる奨励金

山陽小野田市は、市内に住民票がある新入学生を対象に、3万円を上限に市内の協力店約240店舗で利用できる経済的助成制度として「住まいる奨励金」を創設しました。本学では、学生に周知を行うとともに、奨励金の申請受付及び学生への給付を行いました。



山陽小野田市「住まいる奨励金」

(6) スマイルチケットを本学学生全員に配布

場 所：山陽小野田市立山口東京理科大学

内 容：山陽小野田市が新型コロナウイルス感染症の影響を鑑み、市民生活を支援するとともに、地域における消費を喚起するため、市民の皆さんが市内のお店で利用できる商品券（スマイルチケット）を配布しました。なお、本学の学生に限り、市内に住民票がない学生でも全員が配布対象となる、配慮をしていただきました。



(7) 山口県災害薬事コーディネーター養成研修会

開催日：2020年12月20日(日)

場 所：山陽小野田市立山口東京理科大学

内 容：第1回山口県災害薬事コーディネーター研修会が開催され、本学薬学部教員の恵谷誠司教授と相良英憲准教授が座学や演習で講師を務めました。二人の教員は、研修内容の決定段階から山口県庁薬務課・山口県薬剤師会に協力する形で携わっており、受講を終えた24名の薬剤師が県内初の災害薬事コーディネーターとして認定されました。さらに、山口県災害時医薬品等供給マニュアルの改訂にも協力予定です。



(8) 「認知症サポーター養成講座」を受講

開催日：2020年7月6日(火)

場 所：山陽小野田市立山口東京理科大学

内 容：山陽小野田市「地域包括支援センター」のご協力により、荒川智美所長がこの講座の講師として授業を展開してくださいました。授業では、認知症の人への接し方について、急がせない、驚かせない、自尊心を傷つけないことが大切であること、認知症について正しく理解し、偏見を持たずに接する必要性を考える時間を持ちました。受講後は、認知症サポーターとして認められた証であるオレンジリングが学生に授与され、受講した学生は認知症の人やその家族を見守る応援者となります。



(9) 各種委員の応嘱（行政関係）

本学における 2020 年度の各種委員の応嘱の状況は次のとおりです。

| 委員会・審議会 | 内 容 | 本学委員等 |
|-------------------------------------|--|--|
| 山陽小野田市・山口東京理科大学連携協議会 | 「山陽小野田市と山口東京理科大学との連携に関する協定書」第4条に基づき、市と大学の人的・知的資源を活用した連携協力事業に関する事項を協議します。 | 地域連携センター長 河合久雄 局次長 薬学部薬学科 学生部長 井上幸江 教授 |
| 山陽小野田市地方創生協議会 | 山陽小野田市まち・ひと・しごと創生総合戦略の推進に当たり、まちづくりに関する識見を有する市民等から意見を聴取します。 | 工学部電気工学科 森田廣 教授 |
| 山陽小野田市都市計画審議会 | 都市計画の内容、都市計画制限、都市計画事業など都市計画に関し必要な事項を定めることにより都市の健全な発展と秩序ある整備を図ります。 | 工学部電気工学科 森田廣 教授 |
| 山陽小野田市シティセールス推進協議会 | 「活力と笑顔あふれるまち～スマイルシティ山陽小野田～」の実現に向け、シティセールスを推進します。 | 工学部機械工学科 吉田和司 教授 |
| 山陽小野田市地域公共交通会議 | 地域の実情に応じた適切な乗合旅客運送の態様及び運賃・料金等に関する事項など公共交通網形成計画について協議します。 | 工学部電気工学科 井上啓 教授 |
| 山陽小野田市観光関係団体ネットワーク会議 | 山陽小野田市の観光関係団体や事業所のネットワークを構築します。 | 工学部電気工学科 井上啓 教授 |
| 山陽小野田市教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価 | 地方教育行政の組織及び運営に関する法律第26条第1項の規定に基づき、教育に関する事務の点検・評価を行うに当たり、客観性を確保するため教育に関し学識経験を有する方の知見を活用します。 | 共通教育センター 金田和博 教授 |
| 山陽小野田市図書館協議会 | 山口東京理科大学図書館長に図書館協議会委員を委嘱しています。 | 共通教育センター 図書館長 村田貴信 教授 |
| 山陽小野田市健康づくり推進協議会 | 市民の実情に応じた健康づくり施策を推進します。 | 薬学部薬学科 武田健 教授 |
| 山陽小野田市健康づくりの推進に関する医療保健専門職団体プロジェクト会議 | 山陽小野田市第2次健康増進計画の推進にあたり、健康寿命の延伸を目指すため、医療保健専門職団体等との連携を強化するプロジェクト会議を設置します。 | 薬学部薬学科 武田健 教授 |
| 山陽小野田市スマイルエイジング推進本部 | 第二次総合計画における将来都市像「活力と笑顔あふれるまち」の実現に向けて、スマイルアップを目指す重点施策に「スマイルエイジング」が追加されました。健康寿命の延伸を目指し、笑顔で年を重ねることのできるまちづくりにつながる諸施策を全庁挙げて積極的に推進するため、推進本部を設置します。 | 薬学部薬学科 武田健 教授 |
| 山陽小野田市食育推進会議 | 食育基本法に基づき、食育推進計画の作成及びその実施の推進のために設置し、第2次山陽小野田市食育推進計画に関して審議します。 | 薬学部薬学科 立花研 准教授 |
| 山陽小野田市空き家等対策協議会 | 空き家の適正管理や利活用等の空き家対策を推進するため空き家対策計画策定の協議を行います。 | 共通教育センター 金田和博 教授 |

| | | |
|---|---|--|
| 山陽小野田市 情報公開審査会 | 山陽小野田市情報公開条例の公文書の公開請求の決定又は不作為に係る審査請求について審議し、答申します。 | 薬学部薬学科 稲見圭子 教授 |
| 山陽小野田市 個人情報保護審査会 | 個人情報の開示若しくは訂正等の決定又は不作為に対する審査請求について審議し、実施機関から求められた事項について意見を述べます。 | 薬学部薬学科 稲見圭子 教授 |
| 山陽小野田市 男女共同参画審議会 | 男女共同参画の推進に関する施策の総合的かつ計画的な推進を図るための基本的な計画の策定及び変更に関するもののほか、男女共同参画の推進に関する施策の基本的及び重要事項について審査審議します。 | 共通教育センター 池田容子 准教授 |
| 明日をともに考える 笑顔の一行詩 二次及び最終審査 | 「誰もがいきいきと笑顔で輝けるまちへ」をテーマにした一行詩を募集しており、入賞作品選考の審査員を行います。 | 共通教育センター 池田容子 准教授 |
| 山陽小野田市 ガラスのブランド化 推進協議会 | 本事業受託者と小野田ガラス株式会社が連携して作成する計画等について、ガラス、文化、商業、地域づくり等の関係団体から推薦された委員が、ガラスのブランド化について協議しています。 | 共通教育センター 中村洋 講師 |
| 山陽小野田市下水道 事業検討委員会 | 汚水処理施設整備構想及び公共下水道全体計画の見直しのために、総合的な視点から検討を行います。 | 工学部応用化学科 北條信 教授 |
| 山陽小野田市文化財 審議会 | 国・県・市が指定をしている文化財の保護や、収蔵に関すること、また今後の活用に関することを審議します。 | 共通教育センター 内田陽三 教授 |
| 山陽小野田市 かるた振興委員会 | 山陽小野田市の特色ある文化のひとつである「小倉百人一首かるた」の普及振興に積極的に取り組み、芸術文化によるまちづくりを推進します。 | 薬学部薬学科 坂井久美子 講師 |
| 山陽小野田市 高齢者保健福祉推進 会議 | 高齢者の保健福祉環境づくりの総合的、かつ、計画的な推進に関する事項について調査し、審議します。 | 薬学部薬学科 坂井久美子 講師 |
| 山陽小野田市子ども 読書活動推進計画検 討委員会 | 山陽小野田市執行機関の附属機関に関する条例（平成17年山陽小野田市条例第30号）に基づき、山陽小野田市子ども読書活動推進計画について検討します。 | 共通教育センター 堤千佳子 教授 |
| 山口県立 豊浦高等学校 学校運営協議会 | 保護者及び地域の学校運営への参画促進や連携強化を進め、一体となって学校運営の改善や生徒の健全育成に取り組み、地域とともにある学校づくりを推進します。 | 工学部電気工学科 森田廣 教授 |
| 山口県立 下関中等教育学校 学校運営協議会 | 学校運営協議会に出席し、学校運営に関する事項について協議し、意見を述べました。主な協議内容は、教育活動と高大連携事業の取組でした。 | 工学部応用化学科 井口眞 教授 |
| 山口県立 小野田高等学校 学校運営協議会 | 学校と地域を結ぶ組織として、学校の教員と地域の様々な組織・団体の方から構成されている学校運営協議会を設置しています。 | 工学部応用化学科 白石幸英 教授 薬学部薬学科 広井賀子 教授 |
| 山口県立 下関西高等学校 学校運営協議会 | 当該学校の運営及び当該運営への必要な支援に関して協議します。 | 薬学部薬学科 松永浩文 教授 |
| 山口県立宇部高等学 校スーパーサイエン スハイスクール運営 指導委員会 | スーパーサイエンスハイスクールの運営に関し、専門的見地から指導・助言を行うため委員会が設置されています。 | 大学院工学研究科 石川敏弘 教授 |
| 山口県立下関西高等 学校スーパーサイエ ンスハイスクール運 営指導委員会 | スーパーサイエンスハイスクールの運営に関し、専門的見地から指導・助言を行うため委員会が設置されています。 | 大学院工学研究科 石川敏弘 教授 |

| | | |
|-------------------------|--|---|
| 美祢市立美東中学校 | 講師 「志」講演会にて講演を行いました。 | 共通教育センター 内田陽三 教授 |
| 山口県立 宇部総合支援学校 | 学校薬剤師 学校保健安全法に基づき、学校内の衛生保持に関する指導・助言者としての職務に従事します。 | 薬学部薬学科 尾家重治 教授 |
| 宇部市 学校給食センター | 薬剤師 学校保健安全法に基づき、学校内の衛生保持に関する指導・助言者としての職務に従事します。 | 薬学部薬学科 尾家重治 教授 |
| 宇部市立見初小学校 | 学校薬剤師 学校保健安全法に基づき、学校内の衛生保持に関する指導・助言者としての職務に従事します。 | 薬学部薬学科 尾家重治 教授 |
| 宇部市立新川小学校 | 学校薬剤師 学校保健安全法に基づき、学校内の衛生保持に関する指導・助言者としての職務に従事します。 | 薬学部薬学科 尾家重治 教授 |
| 山口県分散型エネルギー活用検討会 | 産学公連携による地域の分散型エネルギーの活用検討により、地球温暖化対策の推進に寄与することを目的として設置された検討会です。 | 工学部機械工学科 貴島孝雄 教授 |
| 次世代自動車利活用部会 | 環境やまぐち推進会議に設置された部会で、次世代自動車の普及促進活動の職務に部会長として従事する。 | 工学部機械工学科 貴島孝雄 教授 |
| 山口県安全運転管理者協議会 | 安全運転管理者講習において、交通の安全意識高揚及びクルマ社会の課題について講師として従事する。 | 工学部機械工学科 貴島孝雄 教授 |
| 山口県 やまぐちバイオ関連産業推進協議会 | 新たな可能性を拓くバイオ関連産業イノベーションの創出のため企業、大学、産業支援機関等が連携した全県的なネットワーク組織として設置されています。 | 薬学部薬学科 武田健 教授 |
| 山口県 自動車産業イノベーション推進会議 | 「100年に一度」といわれる自動車産業の構造・技術変革に対応するため、山口県内の企業や団体が結集して、新たなオープンイノベーションの推進プラットフォームとなる産学公金連携組織として設置します。 | 工学部機械工学科 吉村敏彦 教授 |
| 山口県災害薬事コーディネーター等連携体制検討会 | 災害薬事コーディネーターを設置するため、当該コーディネーターと連携した医薬品供給体制を検討するため検討会を設置しています。 | 薬学部薬学科 相良英憲 准教授 |
| 災害薬事コーディネーター養成研修会 | 講師 災害時の医薬品等の供給調整等の業務を担う災害薬事コーディネーターを養成するための研修会にて講演を行いました。 | 薬学部薬学科 惠谷誠司 教授 薬学部薬学科 相良英憲 准教授 |
| 山口県教員養成等検討協議会 | 県内の教職課程を有する全ての大学や学校関係者等からなる協議会です。教員の育成・採用・研修の充実に向けた取り組みを進めています。 | 共通教育センター 吉村高男 教授 |
| 長門市文化財保護審議会 | 長門市の区域内に存するすべての文化財の保存及び活用に関し、教育委員会の諮問に応じて、必要な調査及び審議を行います。 | 共通教育センター 吉村高男 教授 |
| 西宇部高齢者連絡協議会 | 「身体 健康 社会 と くすり」の演題で、身体の仕組み・薬の適正使用・新型コロナウイルスの現状などを講義しました。 | 薬学部薬学科 武藤純平 准教授 |

8. 消防署との連携

(1) 学生消防団員

内 容：2020年度は3名の学生に学生消防団員の辞令が交付されました。高齢化などで定員割れが続く消防団の活動を若い力で活性化させようと、消防団員の任用資格を市内に通学する学生も対象とすることに変更し、本学で学生消防団員を募り、合計27名の学生が参加しています。



(2) 防災訓練

開催日：2020年10月2日（金）

場 所：山陽小野田市立山口東京理科大学

講 師：宇部・山陽小野田消防局、山口防災工業株式会社

内 容：宇部・山陽小野田消防局、山口防災工業株式会社の協力のもと、防災訓練を行いました。はじめに自衛消防隊を発動させ、地震及び火災が同時発生した時を想定した避難訓練を行いました。その他、消火機器の操作方法を実習し、防火扉・シャッターなどの防災に関する設備の説明がありました。防災訓練実施後にAED（自動体外式除細動器）の講習会も行いました。



(3) 普通救命講習

2020年10月20日(火)、26日(月)、27日(火)、28日(水)、11月4日(水)及び5日(木)に普通救命講習(I)を宇部・山陽小野田消防局小野田消防署から講師・指導員を派遣していただき、本学体育館で合計63名の教職員が受講しました。当日は、心肺蘇生法、AEDの使用法、異物除去及び止血法の方法を学びました。今回の講習会を通して、いざという時のために応急手当の知識と技術を身につけることが大切であると意識を高めることができました。



9. その他の取り組み

(1) 各種委員の応嘱（行政関係以外）

本学における 2020 年度の各種委員・役員の応嘱の状況は次のとおりです。

| 氏名 | 従事先 | 従事内容 |
|----------------------|--------------------|--|
| 望月正隆 学長 | 国立医薬品食品衛生研究所 | 利益相反委員会委員 |
| 望月正隆 学長 | 国立医薬品食品衛生研究所 | 部長等選考委員会委員 |
| 望月正隆 学長 | 厚生労働省医薬・生活衛生局 | 厚生労働科学研究費「医薬品・医療機器等レギュラトリーサイエンス政策研究事業」中間・事後評価委員会委員 |
| 望月正隆 学長 | 厚生労働省労働基準局 | 変異原性試験等結果検討委員候補者 |
| 望月正隆 学長 | 厚生労働省労働基準局 | がん原性試験指示検討委員候補者 |
| 望月正隆 学長 | 国立研究開発法人日本医療研究開発機構 | AMED 課題評価委員 |
| 望月正隆 学長 | 東京理科大学 | 薬学部及び薬学研究科自己点検・評価実施委員会委員 |
| 望月正隆 学長 | 公益財団法人薬剤師認定制度認証機構 | 理事 |
| 望月正隆 学長 | 薬学教育評価機構総合評価評議会 | 評議員 |
| 望月正隆 学長 | 公益財団法人乙卯研究所 | 評議員 |
| 望月正隆 学長 | 独立行政法人医薬品医療機器総合機構 | 運営評議会委員 |
| 工学部機械工学科 結城和久 教授 | 一般社団法人日本機械設計工業会 | 機械設計技術者試験会場副責任者 |
| 工学部機械工学科 吉田和司 教授 | 一般社団法人日本機械学会 | 「柔軟媒体ハンドリング技術の理論の技術と応用」出版分科会委員 |
| 工学部機械工学科 吉田和司 教授 | 一般社団法人日本機械学会 | 情報・知能・精密機器部門所属研究分科会「フレキシブル体のハンドリングと高機能化技術(1)」主査 |
| 工学部機械工学科 吉田和司 教授 | 一般社団法人日本機械学会 | JABEE 事業委員会委員 |
| 工学部機械工学科 吉田和司 教授 | 株式会社日本テクノセンター | セミナー講師 |
| 工学部機械工学科 海野徳幸 准教授 | 一般社団法人日本機械学会 | 中国四国支部 第 59 期 (2020 年度) 商議員 |
| 工学部電気工学科 阿武宏明 教授 | 一般社団法人日本熱電学会 | 理事 |
| 工学部電気工学科 井上啓 教授 | 一般社団法人日本応用数理学会 | 代表会員 |
| 工学部電気工学科 柁川一弘 教授 | 公益社団法人低温工学・超電導学会 | 冷凍部会副部長 |
| 工学部電気工学科 柁川一弘 教授 | 公益社団法人低温工学・超電導学会 | 超電導応用における循環冷却システム調査研究会主査 |
| 工学部電気工学科 柁川一弘 教授 | 公益社団法人低温工学・超電導学会 | 発表賞推薦委員会委員 |

| | | |
|----------------------|---|---|
| 工学部電気工学科 椛川一弘 教授 | 33 rd International Symposium on Superconductivity (ISS2020) | プログラム委員 |
| 工学部電気工学科 森田廣 教授 | 一般社団法人電子情報技術産業協会 | 人間工学専門委員会客員 |
| 工学部応用化学科 井口眞 教授 | 公益社団法人日本化学会 | 代表正会員 |
| 工学部応用化学科 白石幸英 教授 | 公益社団法人日本化学会 | 中国四国支部 幹事 |
| 工学部応用化学科 白石幸英 教授 | 一般社団法人写真学会 | 理事 |
| 工学部応用化学科 白石幸英 教授 | 山口県立小野田高等学校 | 学校運営協議会委員 |
| 工学部応用化学科 池上啓太 准教授 | 一般社団法人触媒学会 | 西日本支部幹事 |
| 薬学部薬学科 稲見圭子 教授 | 厚生労働省労働基準局 | 変異原性試験等結果検討委員候補者 |
| 薬学部薬学科 稲見圭子 教授 | 内閣府 | 食品安全委員会専門委員 |
| 薬学部薬学科 稲見圭子 教授 | 厚生労働省 | 薬事・食品衛生審議会専門委員会委員 |
| 薬学部薬学科 牛島健太郎 教授 | 公益社団法人日本化学療法学会 | 第 68 回西日本支部総会 教育講演演者 |
| 薬学部薬学科 牛島健太郎 教授 | 日本小児臨床薬理学会 | 第 47 回学術集会 追加シンポジウム 講師 |
| 薬学部薬学科 牛島健太郎 教授 | 国立医薬品食品衛生研究所 | 客員研究員 |
| 薬学部薬学科 牛島健太郎 教授 | 一般社団法人日本臨床薬理学会 | 認定薬剤師制度委員会委員 |
| 薬学部薬学科 牛島健太郎 教授 | 一般社団法人日本臨床薬理学会 | 認定薬剤師試験委員会委員 |
| 薬学部薬学科 牛島健太郎 教授 | 公益社団法人日本薬学会 | 医療薬科学部会若手世話人 |
| 薬学部薬学科 牛島健太郎 教授 | 一般社団法人日本 TDM 学会 | 評議員 |
| 薬学部薬学科 恵谷誠司 教授 | 一般社団法人山口県薬剤師会 | 令和 2 年度「災害支援薬剤師」 養成研修会講師 |
| 薬学部薬学科 恵谷誠司 教授 | 独立行政法人国際協力機構 | 国際緊急援助隊医療チームロジ スティクス班 班員 |
| 薬学部薬学科 恵谷誠司 教授 | 鹿児島県薬務課 | 鹿児島県災害支援薬剤師育成研 修会講師 |
| 薬学部薬学科 恵谷誠司 教授 | 公益社団法人日本薬剤師会 | 編集委員会医薬品情報評価検討 会委員・職域部会幹事 |
| 薬学部薬学科 尾家重治 教授 | 西日本医療サービス株式会社 | 顧問 |
| 薬学部薬学科 尾家重治 教授 | 一般社団法人日本病院会 | 講師 (2020 年度感染対策担当者 のためのセミナー 第 3 クー ル) |
| 薬学部薬学科 尾家重治 教授 | 山口県病院協会 | 講師 (医療安全対策研修会) |
| 薬学部薬学科 尾家重治 教授 | 一般社団法人日本医療機器学会 | 講師 (2020 年度第 21 回第 2 種 滅菌技師認定講習会) |
| 薬学部薬学科 尾家重治 教授 | 健栄製薬株式会社 | 講師 (第 6 回福島県薬剤師感染 制御・抗菌化学療法研究会 Web 研修会) |

| | | |
|-------------------|--|---|
| 薬学部薬学科 緒方浩二 教授 | 国立研究開発法人理化学研究所 科技ハブ産連本部 バトンゾーン 研究推進プログラム | 客員研究員 |
| 薬学部薬学科 黒川陽介 教授 | 一般社団法人山口県薬剤師会 | 倫理審査委員会委員 |
| 薬学部薬学科 武田健 教授 | 学校法人昭和薬科大学 | 評議員 |
| 薬学部薬学科 武田健 教授 | 一般財団法人日本自動車研究所 | 「自動車排出ガスの健康影響研究に関する専門委員会」委員 |
| 薬学部薬学科 武田健 教授 | 特定非営利活動法人薬学共用試験 センター | 財務委員会委員 |
| 薬学部薬学科 武田健 教授 | 東京理科大学 | 東京理科大学における薬学教育 の在り方に関する検討委員会外 部委員 |
| 薬学部薬学科 田中宏幸 教授 | 独立行政法人日本学術振興会 | 特別研究員等審査会専門委員 |
| 薬学部薬学科 田中宏幸 教授 | 独立行政法人日本学術振興会 | 卓越研究員候補者選考委員会書 面審査員 |
| 薬学部薬学科 田中宏幸 教授 | 独立行政法人日本学術振興会 | 国際事業委員会書面審査員・書 面評価員 |
| 薬学部薬学科 田中宏幸 教授 | 平和台法律事務所 | 相談員 |
| 薬学部薬学科 田中宏幸 教授 | 山陽小野田市連合女性会 | 講師（薬草講座及び薬用植物園 での講演） |
| 薬学部薬学科 細井徹 教授 | 日本たばこ産業株式会社 医薬総 合研究所 医薬探索研究所 | 技術アドバイザー |
| 薬学部薬学科 松永浩文 教授 | 東京理科大学 | 東京理科大学薬学部及び薬学研 究科自己点検・評価実施委員会 委員 |
| 薬学部薬学科 宮本和英 教授 | 新アミノ酸分析研究会 | 幹事 |
| 薬学部薬学科 宮本和英 教授 | バイオメディカル分析化学シンポ ジウム | 世話人 |
| 薬学部薬学科 宮本和英 教授 | 次世代を担う若手のためのフィジ カル・ファーマフォーラム | 実行委員 |
| 薬学部薬学科 宮本和英 教授 | 学術誌 Scientific Reports(ネイチ ャー・パブリッシング・グループ) | Editorial Board Member |
| 薬学部薬学科 和田光弘 教授 | 特定非営利活動法人薬学共用試験 センター | 薬学共用試験センターCBT 問題 管理委員 |
| 薬学部薬学科 和田光弘 教授 | 公益社団法人日本薬学会 | 学術誌編集委員 |
| 薬学部薬学科 立花研 准教授 | 公益財団法人鉄道総合技術研究所 | 「電磁環境の安全性評価に関わ る研究手法国際標準化検討会」 委員 |
| 薬学部薬学科 立花研 准教授 | 公益社団法人日本薬学会 環境・衛生部会 | 総務委員会委員 |
| 薬学部薬学科 立花研 准教授 | 一般社団法人日本毒性学会 | 編集委員会委員 |
| 薬学部薬学科 畠山允 講師 | 国立研究開発法人理化学研究所 科技ハブ産連本部 バトンゾーン 研究推進プログラム | 客員研究員 |
| 薬学部薬学科 楠瀬直喜 助教 | 大塚眼科 | 役員 |
| 薬学部薬学科 楠瀬直喜 助教 | 山陽小野田市連合女性会 | 講師（薬草講座及び薬用植物園 での講演） |

| | | |
|----------------------|--------------------------|--|
| 薬学部薬学科 山中龍 助教 | メディバイオ事業研究会 | 第 21 回講演会 特別講演演者 |
| 共通教育センター 金田和博 教授 | 公益社団法人日本技術士会 | 中国本部応用物理学部会幹事 |
| 共通教育センター 金田和博 教授 | 一般社団法人技術士 PL センター | 正員 |
| 共通教育センター 浅野比 准教授 | 公益社団法人日本分析化学会 | 分析化学編集委員 |
| 共通教育センター 笠置映寛 准教授 | 地方独立行政法人山口産業技術センター | 講師（多機能化シートワークショップ勉強会） |
| 共通教育センター 亀田真澄 准教授 | 合同会社三玄社 | 講師（久留米高等工業専門学校 Moodle 講習会） |
| 共通教育センター 亀田真澄 准教授 | 一般社団法人日本数式処理学会 | 教育分科会運営委員会委員 |
| 共通教育センター 田島弥生 准教授 | 一般財団法人グローバルヘルスケア財団 | 国際医療英語認定試験問題作成委員会委員 |
| 共通教育センター 中村洋 講師 | 一般財団法人 地球・人間環境フォーラム | フェロー |
| 共通教育センター 中村洋 講師 | 特定非営利活動法人 環境ネットワーク・文京 | 理事 |
| 共通教育センター 中村洋 講師 | 公益社団法人山口県栄養士会 | 令和 2 年度生涯教育実務研修会 講師 |
| 大学院工学研究科 石川敏弘 教授 | 一般社団法人日本ファインセラミックス協会 | 選考委員会（表彰）委員長 |
| 大学院工学研究科 石川敏弘 教授 | 公益財団法人宇部興産学術振興財団 | 評議員 |
| 大学院工学研究科 石川敏弘 教授 | 国立大学法人山口大学 | 国立大学法人山口大学研究規範 委員会委員（外部委員） |
| 大学院工学研究科 石川敏弘 教授 | 国立研究開発法人科学技術振興機構 | 未来社会創造事業（探索加速型）「持続可能な社会の実現」領域研究開発運営会議外部専門家 |

(2) 非常勤講師・役員の応嘱（行政関係以外）

本学における 2020 年度の非常勤講師等の応嘱の状況は次のとおりです。

| 氏名 | 従事先 | 従事内容 |
|---------------------|--------------------|--|
| 工学部機械工学科 永田寅臣 教授 | 岡山大学 | 非常勤講師（機械システム工学セミナー I） |
| 工学部機械工学科 吉田和司 教授 | 中央大学 | 兼任講師（情報機器） |
| 工学部応用化学科 白石幸英 教授 | 東京工芸大学 | 非常勤講師（生命環境化学科工業化学専攻特別講義） |
| 薬学部薬学科 牛島健太郎 教授 | 自治医科大学 | 非常勤講師（臨床薬理学） |
| 薬学部薬学科 尾家重治 教授 | 武庫川女子大学 | 非常勤講師（実践薬科学演習 I） |
| 薬学部薬学科 尾家重治 教授 | 宇部フロンティア大学 | 非常勤講師（微生物・免疫学、薬理・薬剤学） |
| 薬学部薬学科 緒方浩二 教授 | 東京薬科大学 | 非常勤講師（計算科学） |
| 薬学部薬学科 小野浩重 教授 | 就実大学 | 客員研究員（薬学部） |
| 薬学部薬学科 篠原久明 教授 | 広島大学 | 客員教授（医学部・免疫学） |
| 薬学部薬学科 篠原久明 教授 | 国立研究開発法人理化学研究所 | 客員研究員（生命科学研究所センター） |
| 薬学部薬学科 篠原久明 教授 | 東京医科歯科大学大学院 | 非常勤講師（医歯学総合研究科・医科学数理分野） |
| 薬学部薬学科 嶋本顕 教授 | 広島大学 | 客員教授（口腔生物工学） |
| 薬学部薬学科 田中宏幸 教授 | 九州大学 | 非常勤講師（大学院薬学府 天然資源学） |
| 薬学部薬学科 広井賀子 教授 | 一般財団法人グローバルヘルスケア財団 | 研究部客員教授 |
| 薬学部薬学科 宮本和英 教授 | 姫路獨協大学 | 非常勤講師 |
| 薬学部薬学科 百溪江 教授 | 山口大学 | 非常勤講師（大学院医学系研究科 医学倫理学特論・医療倫理学特論、研究者行動規範特論） |
| 薬学部薬学科 伊豫田拓也 准教授 | 東京理科大学 | 客員准教授 （研究推進機構総合研究院 再生医療を加速する超細胞・DDS の開発研究懇談会） |
| 薬学部薬学科 伊豫田拓也 准教授 | 東京理科大学 | 客員准教授 （研究推進機構総合研究院 核酸創薬研究部門） |
| 薬学部薬学科 川上広宣 准教授 | 九州大学 | 共同研究員（大学院薬学研究院） |
| 薬学部薬学科 沖田直之 講師 | 東京理科大学 | 客員研究員 （研究推進機構総合研究院 核酸創薬研究部門） |
| 薬学部薬学科 沖田直之 講師 | 東京理科大学 | 客員研究員（薬学部生命創薬科学科） |
| 薬学部薬学科 中川直 講師 | 東北大学 | 非常勤講師（大学院医学系研究科） |

| | | |
|-----------------------|--------------------------------------|-------------------------------------|
| 共通教育センター 堤千佳子 教授 | 山口大学 | 非常勤講師 (英語会話Ⅱa) |
| 共通教育センター 堤千佳子 教授 | 山口県立大学 | 非常勤講師 (アメリカ文学講読Ⅱ) |
| 共通教育センター 村田貴信 教授 | 宇部フロンティア大学 | 非常勤講師 (哲学) |
| 共通教育センター 浅野 比 准教授 | 東京理科大学 | 客員准教授 (総合研究院) |
| 共通教育センター 浅野 比 准教授 | 下関市立大学 | 非常勤講師 (アカデミックリテラシー パソコン実習) |
| 共通教育センター 笠置映寛 准教授 | 広島大学 | 客員准教授 (物理教材内容論Ⅰ) |
| 共通教育センター 木村良一 准教授 | 大学共同利用機関法人 情報・システム研究機構 統計数理研究所 | 客員准教授 (創薬に繋げる実験動物の 脳機能イメージング法開発) |
| 共通教育センター 木村良一 准教授 | 東京大学大学院 | 共同研究員 (農学) |
| 共通教育センター 福田みのり 准教授 | 山口コ・メディカル学院 | 非常勤講師 (人間発達学) |
| 共通教育センター 大庭尚子 講師 | 徳山大学 | 非常勤講師 (ダンスⅠa・b、ダンス Ⅱ、エアロビック運動) |
| 共通教育センター 中村洋 講師 | 早稲田大学 | 招聘研究員 (総合研究機構 教師教育 研究所) |
| 大学院工学研究科 石川敏弘 教授 | 東京理科大学 | 客員教授 (総合研究院 先進複合材 料・構造 CAE 研究部門) |

(3) 船鉄バスのフリーパスについて

本学と船木鉄道株式会社は、公共交通フリーパスに関する協定を締結しました。本協定により、2020年4月から、本学に通う学生は学生証を提示することで、船木鉄道株式会社(船鉄バス)が運行する路線バスの全路線を無料で利用できます。

(4) 研究機器の開放

研究機器センターに設置している大型の測定装置、分析装置を企業に開放しています。2020年度の企業等の利用状況は次のとおりです。

| 利用企業数 | 利用回数 |
|-------|------|
| 6社 | 9回 |

10. 地域からの入学

(1) 地域推薦

入学者に占める山口県内出身者の比率を高めるために、学校推薦型選抜では山口県内の高等学校等出身者を対象とする「地域推薦」を採用し、工学部では入学定員の23%、薬学部では入学定員の25%を地域推薦の募集人員に設定しています。

2021年度の入学者選抜区分と募集人員は以下の表のとおりです。

(単位：人)

| 学部 | 入学定員 | 入学者選抜区分と募集人員 | | | | | |
|-----|------|--------------|-----|-----|----|-------|-------------|
| | | 地域推薦 | | | | | 一般選抜 その他 |
| | | 市内枠 | 県内枠 | 指定校 | 計 | 割合 | |
| 工学部 | 200 | 13 | 33 | - | 46 | 23.0% | 154 |
| 薬学部 | 120 | 5 | 20 | 5 | 30 | 25.0% | 90 |
| 計 | 320 | 18 | 53 | 5 | 76 | 23.8% | 244 |

(2) 入学者に占める山口県出身者（学部）

2021年度の入学者335人のうち、山口県内出身者は104人と、入学者全体の31.0%となりました。

(単位：人)

| 学部 | 入学者数 | 山口県内出身者 | | 山陽小野田市出身者 | |
|-----|------|---------|-------|-----------|------|
| | | 人数 | 割合 | 人数 | 割合 |
| 工学部 | 215 | 65 | 30.2% | 10 | 4.7% |
| 薬学部 | 120 | 39 | 32.5% | 6 | 5.0% |
| 計 | 335 | 104 | 31.0% | 16 | 4.8% |

11. 地域への人材輩出

大学院進学者を除く 2020 年度卒業生数は、工学部が 138 名、大学院（修士課程）が 21 名で、このうち山口県内への就職者は 60 名（就職者の約 41 %）となっています。

また、山口県出身者の山口県内就職率は、約 69 %となっています。

山口県内の主な就職先は、製造業、建設業です。

（単位：人）

| | 就職者 | 山口県内就職者 | | 山陽小野田市内就職者 | |
|---------------|-----|---------|-------|------------|-------|
| | | 人数 | 割合 | 人数 | 割合 |
| 工学部 | 129 | 54 | 41.9% | 7 | 5.4% |
| 大学院 (修士課程) | 18 | 6 | 33.3% | 2 | 11.1% |
| 計 | 147 | 60 | 40.8% | 9 | 6.1% |

※山口県内企業は県内に本社又は事業所がある企業を含む

※山陽小野田市内企業は市内に本社又は事業所がある企業を含む

12. 地域への経済波及効果

山口東京理科大学が立地することによる地域への経済波及効果（2020 年度）

| | 山口県への経済波及効果 | 山陽小野田市への経済波及効果 |
|---------|-------------|----------------|
| 直接効果 | 26.7 億円 | 14.6 億円 |
| 生産誘発額 | 22.0 億円 | 12.0 億円 |
| 付加価値誘発額 | 13.7 億円 | 7.5 億円 |
| 総合効果 | 62.4 億円 | 34.2 億円 |

13. 市内人口の約 44 人に 1 人が理科大生

2021 年 5 月 1 日現在の、山陽小野田市の人口 61,241 人に対し、山陽小野田市立山口東京理科大学の学生数は 1,380 人（学部 1,340 人、大学院 40 人）と、市内人口の約 44 人に 1 人が理科大生となります。

公立大学法人 山陽小野田市立山口東京理科大学
〒756-0884 山口県山陽小野田市大学通1-1-1
TEL: 0836-88-3500 (代表)



公立大学法人 山陽小野田市立
山口東京理科大学
Sanyo-Onoda City University